

# 無名通信



5

1959 12月



# 論異の「論共稼ぎ」

鹿島 邦子

共稼ぎ論について二んな意見をもち  
っています。ある友人が「私は経済  
的に力をもつていなければ自分の地  
位が低くなるから、夫の収入だけ  
だと十分であつても共稼ぎは絶対  
やめさせん」と申しました。私は家  
庭の仕事の中にも女の善びがあるよ  
うに思いますが。未婚は結婚の予定  
すが主人の収入で一家を支えらる  
ようになれば私は家庭におさまる  
つもりです。家庭内の仕事は女の視  
野を狭くし、家庭内の地位を低くす  
ると思つていません。  
男女は敵対関係にあるのではなく、  
一しよになつて初めて一つの働きを  
なすようになるのですから、分業す  
るのは当然だと思つてゐますが。一  
共かせ論をおきかせ下さいませ。

# モ・ちつと・イッダマシヨを いれやうたもんせ

中村 きい子

家庭の仕事の中にも女のよろこぶか  
ると云う言葉には、古い考えをもつ男共  
は舌なめずりしてよろこぶにちがいない  
「貴女の善びは僕らのよろこぶ」とい  
た具合に。どだいそんな善びなんて妻  
が夫に隠れて貯めたへそくりのようなも  
のでちやんちやらおかしくてならない。  
結婚して人間を駄目にするのは誰かと  
云うことを「男女は敵対関係ではなく」  
云々のオ・ナ・ノ人は考えてみたことがあ  
るのだろうか。私など結婚教年前から  
絶対男性の経済力に必らず下つて生きて  
ゆくような女性になりたくないと思つて  
いた。だから、鹿島氏の男共からは総ス  
カンを喰つた。「家庭の仕事の中にも女  
のよろこぶがある」なんて言葉はまだ知  
りなめり前髪のと云つた少女的ピンフの  
夢物語でもきいてゐるようだ。そんな女  
性と合つたら私は「イッダマシヨ、イレ  
ヤッタモンセ」と背中のおどつともどや  
したくなるだろう。  
受し合つてゐる夫婦だからといっても、

クインシーラインの粗粒性の原理は依然としてその  
基礎の固にはあるのぞき。

あるべきのはなし。夫はものを書いてそれと生甲  
妻を愛している人。奥さんの方は毎日平穩淑事を  
愛することと願っている人。世から夫がものでも書き  
はじめるともうせわせわしはひめる。と上野さんや  
かま元断の幸福を二わしてもらいたくないのか。

決った時河に流り、決った時河に出動し、そして家  
を運河線など流んをいるようは夫をのせんでいる  
のだ。夫の方は別れたがっているけれど奥さんが  
経済的に其目的から可愛そうと思つて夫を擁するとい  
う。奥さんは夫の書くものはわからない。世から  
共に善いを感じたことはいないという。まあ、二人  
なかに誰かしたとなくより、その奥さん自身は  
隣の幸福のよろこびに甘んじていたからであるとい  
うことを考えたかよからう。

「家のなかの仕事だつて男の仕事と可憐の意味をも  
つ」とは河下も当然に二二えるこの言葉が善美は女  
性の善い正史をつくる才一歩となつていふのだとい  
うことを忘れてはならない。

## 共稼ぎの必然性

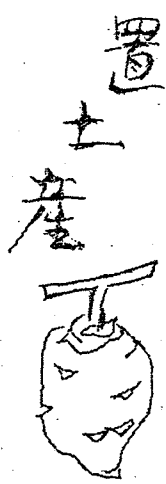
森田チエ子

最初一家を支えるために働いていた私が  
結婚して共稼ぎするようになった。結婚  
資金の返済のためという浅い気構えが  
差株の治療費を得る目的となつたり、半  
年百には、夫がパージされ、失業時代に  
は大黒柱になったこともあった。結婚と  
いっても二人だけのものなどなく苦しい  
日々が続いた。つきつめれば食しいと  
いうことである。このことが私をいくつ  
かのサークルのメンバーとした。サーク  
ル活動といつても気やすめ程度のもので  
あったが、二、半年前ぐらいの間にいち  
づるしい自費をもつことができたのであ  
る。二、三学んだ結論として、共稼ぎ十  
年後の今は、最新の考えをコッパミジン  
に打ち砕いてしまった。

女性たちの学問の正史をほり下げてみると  
さ、女子学問はもとも男子学問の従属  
ではなく、よりよき共同善であった。  
履業をみてもわかるように女性は男と同じ  
ように働いていました。ハタ織り糸紡ぎは  
もっから女子が担い手であった。二の東

際の時分にもかゝわらず女子の社会的地位を低く押し下けたものは階級社会であった。しかも性的にも男子中心に出来上ったその弊であった。この押し下けられた低い地位を当惑のうちに横たすまで来た私たち。その無意識さが女子時分の眞金を低くし、就取の門をせまくし、私自身を以って体験した石炭産業の企業合理化は、首切りのやり玉に上けられた共稼ぎ。この重石、即ち社会の弊に甘んじている男たちと一戦もまじえず、どうしてこの弊をはねのけることができよう。夫婦なればなお深く熱く……

現在仕らいている女たちは、いくつかの斗いの至験をもち、男たちの支配には身をもって憤りを抱いている。私たちがやっている多くのサークルでは石炭産業や其の他の生産に従事している女性が地境の婦人たちと手をむすびリードしている。産業をもっている者、組織の意味を体得した者が家庭婦人の水先案内人になる事実とその理由をぬきにして、共稼ぎ論を論ずることはできないのである。



秋以来かんばしくなかつた健康のバランスが、田舎バスのようにガタピシとなつて懐込み、あちこち盛分めいわくかけました。なかでも十二月の十三、十四とかけて遠路たかねてみえた方々とは話すこともできなくてすまなく思いました。珍客多々あり、二の校に放談しあえは九州の地光りも見えたものぞと、自責にかられました。お詫言にかえてその折々の彼女らの置土産を招かいたします。(森野和法)

X X X

岩田マキさん かつて川端康成から激賞された「長屋哀歌」の作者マキちゃんが、うす紅の毛糸につまれたバビエを連れてみえました。夫の炭坑は岡山。失業保険も切れた。けれどもまだ実感が湧かないの。炭坑以外に販を深したいけどどうなるか……

という彼女は、疾風鳥女特有のゆつたりした落着きで、まだまぶしは深いのだ。二はは戸口にすぎませんとという表情。いまこそ「長屋讀歌」をじっくりと書かあけて下さい。

長瀬子とん 函夫妻と四つのお嬢ちゃんとお揃い  
だ。一家庭内での討論の場がさきはじめたの。お姑  
さんも天の妹たちも私たち夫婦も、家庭上ついでそ  
れそれの立場から話し合うことをしはじめたのよ。  
偶然のさっかけからだったけれど、日本人は家庭内  
で充分に意見を交換することには恥らいを持っている  
外での話し合いの土台となることだから今後を大事  
にしていきたいと話しどうした。ある真さんが  
「夜風にあわなげと結婚叱られる、子供もいるけど  
所帯したい」とかけこんでこられたことへの提さん  
夫妻の意見が家族サークルの核線になったこと  
でした。

土津川トキ子さん ひまわりでいた舞踊サークル  
が生活記録へ参加したのを機会に、いままで運動ら  
しいこと一切への疑念をもっていた婦人会を休を舞  
踊を断してはじめました。彼女一流のどんと来い  
方針に引きよせられて、婦人会幹部たちも遂に山口  
のうたごえへ出席。はじめで締められた巻もさぞやか  
ヒ、炭焼る仲間しなどを踊り積極的中立主義へ踏み  
出しました。また彼女は北舞踊協会を編成者  
団にトラジを合體してもらい和興の振付を舞って  
別れを惜しまました。火舞への招待が一号を舞

して楽しんでいきます。炭住での無名通信の仲間十  
数名と話し合いを持ってそれらの舞券約分恒を淡  
めました。十一月二十一日から二十三日まで京都  
大学祭の講師として出席。学生の名さげなごを  
がさに見て来てごみじがっていました。以上やっ  
くり話すには気の善な程初めてみえたので、とぞそ  
くさと話して帰った彼女の近況です。

原田幸枝さん 福岡映画夜会の観賞委員になって  
映画批評している内にすっかり度胸がすわったとい  
う感じですよ。福岡財金文学サークルで大長静代さ  
んと「部族」論議。無名通信の博多スループの報告  
持参。

森田ヤエ子さん 三菱の炭坑合理化に主力となつ  
て斗うことを決意計画。 匠いうちに女性の懇談  
会をひらきます。文学サークルもかすがな行き違  
いを一新させるべきとき、ヤエちゃん横壁にかま  
ていました。二の隙みんなと立ち上りたいと老朽  
したヤマメに梅もどきの赤ささながらのついでです  
浅葉、浅葉。朝目ごめてすく原稿書き、頭上を  
うちやんが編みかけ編みかけ、くだらぬこと争っ  
てはためたならぬ。今に戦果がわかるぞという感  
いが胸にぞくぞく、というところ。

# 「主婦のことば」より

ゆっくりと柔かに

上山田栄坑 森田ヤエ子 詞  
三池栄坑 荒木 栄 曲

おいつめ られー くいつめ てー

お お

お お

お お

どんごま りー そのー どんごま りで

どんごま りー おおー おお

おいつめ られー くいつめ たー

お お

お お

森田 ヤエ子 作詞

おいつめられ

くいつめて

どんごまり

そのどんごまりで

おいつめられ

くいつめた

作詞者のことば

可………二は葉豊・上山田栄坑のどんごま  
り、裸の………も別におかしくはない、こころ  
です………由々、若葉屋、強さやまを去  
つた人が木枯のように泣いて、さびしき………  
うたの………詩は空々しく、さびしき………  
やせ………うた………どんごまりと  
かんも………どんごまりと、さびしき………  
うた………考えさせるような詩、作詞者の  
真の………うた………ひらかせる………  
かほ………  
この………詩は主婦の………  
………  
………

※ うたい方

人 音 唱

ス 上段を独唱又はアルト

カバス・下段を他のパート

ハ 音 唱

マ 音 唱

# いつの日か

大塚かすみ

しあわせもいつの日か来ん續い持ち夫に会い  
ゆく吾子を背負いて

毎日於さみしく悲しくどうしたらよいかと迷うとき  
私は下手ながら歌を依っておりました。けれど私に  
まぶ、ぼんとうに幼いけれど子供がいることはどん  
なに力になっていっていることさしよう。精神病院に入っ  
た夫にかわって泣きに行く朝、早々とあずけるとき  
、私はいつも心の中を泣いてしまします。この頃  
はでも仕事にもなれて、たゞ一生懸命です。  
子供がかわいそうなどと感ってはおられませんが、  
仕事に疲れてお手紙もよく書けません。  
グループに入りまして、なんにもぶささないかも知  
れませんが、何か交えもほしい日々を過ごしていま  
す。

# 建設の歌

福田久美子

砂丘二りあはて駆けゆくデモ隊の下駄車履地  
足袋がまちまちな音  
もつれゆく対果交渉つづさへ伝えくるスピーカ  
ーの前に自業者等被る  
なだめられ 子供のまどく帰る未ぬ田交は  
一握よりはかなかりしか  
いかほど必然性にて女うならむ 知事群衆に  
努力を誓う  
七時間あまり 予算なきことのみなう部長掛け  
あうと二ろは二二とも違う  
食ひきなりの貯るさ持ちて自治券の女等うたう  
建設の歌  
十月十日をしたらかしら 田川の自治券者と生活保  
護者組合のひとが貸切バスを県に交渉に行つた時、  
まぎれ込んで県庁に行き、交渉のありさまを見て  
きました。そのことはまた書きます。



生きていることと死にたいこと

谷川 和子

博多グループの話し合いの中に、人命のことについて一寸出されておりましたけれど、最近同じような言葉をきいていましたのを強く心に残りました。

医者に療養を乞い渡されて、病氣そのものには驚かないのですが、至望している小さな店のやりくり等、心算めしている私を心配してスループである女医さんが、国家保護の申請のためのレントゲンを診て立券してくれました。

彼女は二児の母であり主婦でもあるが、しい保健所の医者のようです。

「写真はお、たいしたことはないのよ、おれ位ならすぐ済ませてしまいます。でも何か心配事を抱えたとあなたの言だからめいっつてしまおうと大変でした。あのね、私は医者だから病死者の病人につくことが度々ありますけれど、死にかけている病人を前にして医者下とつてもその家族にとつても、ヘルツが脈打っていることが最大の救いです。それが止った時もう何もかもないんですものね、生きていく事だけでも救済があると思つて元氣を出

すんですよ。審査は通しましたからお菓は来るはずですよ。あなたは心臓は強いんだからと笑つて力づけて呉れたのです。

殿様の浮き波みに、ふと暗い影がさすめるとき私は大きくかぶりをふるのです。

戦争も末期に近い昭和十九年の春、その頃住んでいた芦屋へ兵庫縣から神皇の熊本へ急用を向う途中、少しずい列車にはみ出されてやむなく乗込んだ軍用客車が、学徒出陣の一隊をのせたものでした。菊池の飛行隊へ向う特攻隊の兵士たちだったのです。二の心とこのまどるとにか、わらわら陛下の命令、一つの勲章を放棄しなければならなかった彼等は、死出の旅へ直に区まれて行きました。

軍隊持参の華臭い客車は、笑い声や話し声もあまりせず、静寂に見入ったり、文庫本に読み小ける青年達の顔があらまじした。私に席をゆずってくれた東大慶学園の学生は、シートの背にひかをつきなながら低い声で、「死にたくない、好んで飛行隊に入りたいのはよいのです。二三ヶ月先には戦艦めかけて突入ですよ、僕は妹もいないし恋人もいない、選

然汽車で一語になつたのが何かの縁さしよう。

新肉に饑の戦死がのつたら、縋香をもあけて下さいと  
と言葉少なに話し、ノートの端切りに名前を示しま  
した。

女学生だった十七才の私に戦争のもつ意味も、彼等  
の苦悩も充分には解るはずはないのですが、感傷的  
な女の胸がいつまでも痛んだのをおぼえておりま  
す。空襲にっぐ空襲。新肉を気をつけてみるいと  
まもないまゝ、その人の名も見つけ出せなかつたけ  
れど、あの青年はきつと、前海の藻屑と消えたと  
いない。――私だけが生きて何になる――死にたく  
ない命をむけに敵らと取付けばならなかつた私たち  
の死なち、父たち。私は、空襲に入らずに母を囚  
せられたものでした。

戦争はさくても今日、失業や生活苦などの一家心  
中や自殺、当地の漢民の水候病への恐怖など生きる  
ことのむづかしさを考えます。

明日の米にも困る漢民の事は病気の症状の現われた  
子供を一人は背負い一人は腕に抱き、検査のために  
切取られた髪の毛と爪をみながら、毒物の検出を  
うと云うのです。――癒えることの無い水候病。検査金  
の確保のためには子供の命すらあきらめると云うの

でしょうか。その母親の髪の毛は、女を慰める  
ことの証明のように、未だに布切れで結縛れていたとい  
うことです。――雇った香は仕方がない。健康な人  
間の生きたい本能の欲望そのまゝに。――無知でもな  
い。無気力でもない。怒りに麻痺したあわれな生初  
の小さな抵抗のかたはなのかもわからぬのです。  
せめて生きていと願うせい一杯の欲望が生甲斐あ  
るよろこびに変わるまで、考え続けたいと思えます。

## みてく水 堤 潤子

自分の内情をがちこわして行くといふことは、生  
やさしい仕事ではありません。自分を自分以上  
見せようとする努力が、今日まるの女を型造つてき  
た実態ではないかと思えます。

私達は今の切替をしなければならぬと思えます  
先づ自分自身を知るといふ自己反省に切り替えて  
みたらどうでしょう。また、お姑さんの話が出て  
くるのです。某家のお姑さんか、嫁に二人なこ  
を話してきかせたのです。

「お婆あちゃんはおつまり、お姑さんのお姑さんだ  
つた人」とつてもやかましい人でしたよ。――酸が柔

らかくてもわるいし、かたくてもわるい。それでお  
後を斜にしてご飯をたきましたよ。どうするとか  
たいご飯と、柔かいご飯が何時にたきました。そこ  
おおばあちゃんか、ご飯がたいたと云えは柔かいと  
ころをついでやり、柔かいとか言を云えはかたいと  
ころをよそってやりました。万幸につけてこのよう  
なした。

お姑さんはこう女つて嫁をみました。お姑さんは  
その時の苦味を尋らから披露しているようにお姑は  
思えました。さも二のお姑さんは、苦味していた  
その苦味は、その苦味を尋らから取ってわいのさし  
ようか。

誇りとはい体柄はさう、自愛、名譽、徳意、  
お姑さんはやはり、嫁と酒意をおおあちゃんにつか  
えていたと取ります。二のお姑さんは、苦味の  
其、の氣持をいばんとす下苦味しましたよ、さも、  
こんな苦味はもう私だけだなくさう、といつたら  
どうなしたう。家族制度の中におおれた家の立  
場を批判する自愛したお姑さんが生れてくるのです  
そして、その言葉は足せかけをたいた、お姑は  
の中仁信義と愛情に満ちたお姑の像を刻みだすこと  
をお姑さんの云はないかと思ひます、さう云はつて

お姑さんが苦味したお話も生きてくるのはないか  
と思ひます。

信義とか、愛情とかは強要されるほどいやなもの  
はありません。

政治色を含み、けしからぬ母親大会と、自派党の  
候補が入った第五回母親大会上、安保條約改正問題  
が取り上げられたという二とは全く驚異でした。さ  
も二の安保條約改正を反対決議した母親大会にもと  
て母の批判があるようです。しかし、母親大会に出  
席されたその人達が、感情的に面白くないとか、母  
親大会の本来的目的をはき違えているとかいわれた  
二とに對して、感情的にいさり立ち、まなひりを逆  
立てたの云はなくて、彼女たちがじっくりと考へ、  
さうすること以外に自分達誰んかの偉せを約束する  
二とをなさないという結論に達したと云ふことであ  
れば、それは純粋に誇美した女の方と取ります。  
現せば行をかまかり捨てた女どうしの相互理解の上  
に、女性解放の花びららくの云はないかと思ひます  
確の雲などぬいでもまいたいと思ひます。  
かたつむりのように、重い確の雲を背負ってまわる  
のは、私は、もういやなのです。

—とまの音・ちかひの音—

# 看護婦について

武山 正子

今日、婦人はあらゆる職業に進出していきますが、看護婦は重要な婦人の職業として、否、むしろ婦人になげれば出来ない職業として重大な使命を持つものゝす。私達看護婦はこのことをよく自覚して職業に責任を持つなければなりません。

先日、月刊炭研十月号の座談会の記事「そんなのが看護婦さんなんか」と結構する」を記しまして「看護婦さんなんか」のなんかとは何を指して云ったのか、疑問と共に、それは看護婦と云う職業を軽蔑していると思われました。そして、発言した方が活動家だろうと思ひます。なおのことこのよ様な発言は考へさせられ残念にも思ひました。

私達看護婦の業務を立派に遂行していくには、先づオナーに看護する精神、生命の尊さ、病苦に悩む人々に健康を、これに云うに及ぼすすが、や、も

すれば亦れがちな、二の玄義な人間愛、これを目的として歩まねばと思ひます。

私はこの職業に誇りを持っており、しかし、只報酬を貰うためにという気持ちの人もあることも事実です。二のよ様な人は決して良い看護婦の仕事はできないと云われます。これには私も同意です。

二のよ様に、看護精神を忘れた一部の人を指して一般看護婦を論じられることは迷惑なことに思ひます。が、又これらの人々をのみますと、一般に非難するのも無理な面もあるようです。なぜと云って、その看護精神を消滅させる程度しか切っている方も多くいるからです。二のよ様に切つていない気持を、抱かせるのは、やはり社会機構の欠陥だろうと思ひます。

私達看護婦人は、たゞ権利を主張するのではなく、私達一人々々が職業に対する責任感が基盤となり、責任を付けたることを忘れず、いつ何時に、看護婦という職業に對してもっと理解を深めて頂きたいと思ひます。

# 高嶺の花と平坑夫

—— 赤発堀のエネルギー ——

小日向 哲也

もともと看護婦さんの仕事というのには未チンで傷口を消毒したり、たすかない病人をも注射で安心させたり、ゴージャクをばったりするのが職業と解はりました。

ところが、月刊成歩十月号掲載の座談会（赤発堀 仰香の恋愛と結婚）について読者の反応を予想していたところ、はるか北海道から毒天ならざる予注が、どの反応も看護婦さんから来たのだ。

発行当時は独身寮の仲間たちめからも、華実とが互り置かう、という反論があったと風の便りまで聞いて、これは少し面白くなるかと想っているうちに雑誌状態になってしまったことだ。

何願の記者について若干の不備はあるとしても、赤ポイントはつかん控つもりです。流行をおう若者のエネルギーというものがすばらしい力をもっていることはご存知の筈と取ります。スタイルといっ

もいろいろあるなかで、独身寮の生活スタイルが読者の発端になったのです。喧嘩もバブチも、SNSもパチンコも、一つの流行としてあつかうならば完全にマイナスイ面のスタイルです。それを僕らは善とか悪というようにとはとっていないのです。僕自身も發でさなかつたゴンアレックスを含めて評価してはるわけです。これらの人たちは、やる気になれば革命とえも可能にする前任のエネルギーを内包するとおもっています。

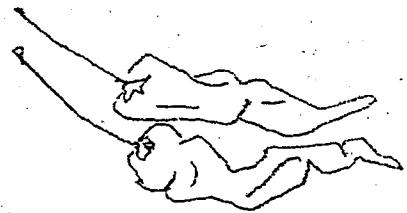
武山さんは僕の表現を気にされました。もっともそのことには思いますが、はじめことをつかったからって中味に変わりはなれないかと考えます。発行しているところは日本だけに限らず、その国でも独身男性が多くて娘さんの少ないのが共通でしょう。ましては白衣の天使などという枕詞を添ら下伏せられる看護婦さんが、一般の坑夫には高嶺の花とみられるおきがあるります。武山さん、あなた自身の内面は、平坑夫とは、というふうなものがないと云えるでしょうか。その看護婦さんとギク立ち、三益生、所詮端の若むつきには共通性があるように僕は思うのです。僕も誠意もなく人の言うことならハイハイと受け

もかいたえなはいか草のようにならに生息をなさしてお  
ります。そのような壁中に羽化を待たせての新しい思  
想を生むエネルギーを期待できるでしょうが、僕は  
ダンスアルトアと看護婦さんの結婚を聞いています。

皇太子の結婚をおもい出して下さる。テレビに  
がみついて大きな口をあげ、阿呆顔で熱中したの  
は誰でしょうか。筑波を襲は投石少年を支持し  
た。活物家といわれる仲間たちから猛烈な非難を  
されました。もともと皇太子夫妻にあってはどうし  
て投げた石ではないから当るはずはありません。気  
の狂った沿道の群衆に向って投げたのです。むしろ  
競艇やパチンコに熱中していた者のほうが冷静であ  
ったかも知れません。評語の基準とはどんなもので  
はないでしょうか。ですから、ダンスアルトア  
と看護婦さんが知り合って結婚したといいたから、  
て、お辱したことにはならないわけです。  
むしろ、このような結婚のスタイルが、現在その形  
を失ったことこそ残念です。

### — 井戸端会談 自己診断 —

## 博多グループ



十一月十九日、博多アルトアはオ二回の例会を持  
ちました。二の記録はその最初の三十分位のもので  
その上か度々不正確なものですから会全体の模様を  
正しくは覚えてないところがあると思います。出席  
者は河野、大長、豊原、岩見、原田。最初は前の  
会合の内容がよく判らなかつたというようなところ  
から始まっています。

A 女の論理と母親の論理の対決は無名のなかから  
は生れない。森崎さんが女の論理といつた舞台、無  
という完結性さえない自己規定性のない実態を指し  
ています。私は女の論理を非所有に置きます。  
男達は私有の領域を拡大させることに苦しみ、その

勝を競争し、排他的になる。そこで彼等もまたそれ  
を側面から援助し、外的な条件を破壊しととのえる  
ことだけを要求します。しかも女性は子供を主心とし  
う私的な行爲を既に社会的な行爲とも考へる。女  
らしには無益な競争心に善しとおぼれおぼれ、女性  
何別的な行爲をして変革をのぞむのとはなく、変革  
も発展も更に自己の仕事でこゝ共有的な種族を伸ばし  
発する事ができない必然性を持つています。教育の  
偶然性がその必然性へ業對を起すといえます。

**B** 創刊宣言では、女は今までの台所の役割を棄を離  
してきたというようにとらえられていますが、それは  
は女だけではなく男も女も奮めて進んできたのとはな  
いかと思ひます。男性は女性といふ立場を考へてお  
ている。そこがよくわかちあひ、いっしょに食ひあひ  
人達をもつと盛った秩序をもつています。

**C** 前にも同様に、た男性は女性を先づか、階級  
対立が先なのか、という二つね。

**D** 森崎さんの考へには先づ女同士の結合、その  
後に男性と向き合う。そして男性と結合することだ  
とさるという二元論的なところがあります。

**C** 女が變つて行く過程の中で階級対立も變る。こ  
れは二つの異つたものではないと思ひます。

**D** 私は創刊宣言の言葉を持たない女達集まりまし  
ようという呼びかけ、どんな女達の女たちが集まる  
のかと思つた。共産や商家の女性など夫と同等に働  
つてゐる人たちは、男性とも対等の關係をもつてい  
ると願ひます。

**C** 女性と男性的には一対一でも感覚、意識の内  
は男性に從属するものという事をこわさかに対等に  
なつてゐるのではない？

**A** 自己を規定せずとも女への意識を確めようとする  
ものではないの。男達が現在の情勢の中でどのよ  
うにする事が可能かなどと案外一つのところをカ  
ルカしてゐるのに対して、女は多分に突感的、美  
容對です。それをもつてすれば今までの美存主義的な  
ものではなく自己を規定ささるかが問題です。

**B** 家父長制は日暮のあらゆるところにあります。  
文化、芸術など現在のものほどとんどが男性に  
よつて造られた事は認めざるが、台所を流していた  
のは男も女もそれはさう思ひます。

**A** たしかに自己を除外されない版場をもつてゐる  
のは、現代はほん少教の人たちだけとは云へます  
**E** しかし、男が泣いて来たとなう事と女が泣いて  
きたという事は質的に少し違ひがあると思ひます。

D 叔力に從屬させられてゐる男に從屬するといふ  
二重の從屬關係を意味する。

B 婚約の男性にも仕事をせよと一語にやろよと願つ  
てゐない。あきらめてゐると二重がある。

E 女性の半にも從屬關係を意味する。その二  
おさなはまゝにやつてゐます。男がら一つの目的  
に向つて二人を遣ひ、同一の知識を得ても男性を離  
けはせぬ。それは何も強らぬといふ結果にたつてい  
る。

A 叔のところは二つの雄を親々にたがやしてその  
結果でけんがしようとなつてはたなくそれを合せ合  
おうといふところ。

D 現在の婦人雜誌などは男性の要求に應じた女性  
を道ろうとする傾向がありますね。

E それほど二がら起つてゐるしやうね。

D 丁度時・聖海的・政治的にちがねれたもので  
女の本質的・生理的なものではないと思ふ。

B しかし、女が子供を生むといふ生理的條件もあ  
るのではない？ 女が子供を生むといふ事を女の  
境とみるか、男性にはできない事とみまますか？

C 生命を生み出す事、偉大さだと思ふ。

B そうばかりは云い切れぬ、生むまでが大変で

しよう。  
A 何もしない子供を生むといふことは大変なことです  
よー、二重は何かをなさず、母親は消費させられる  
そのようないことと女の活動がマイナスイになつてもそ  
れが子供を生むせいだと感わかれてる事に同意がある  
のではないですか？

B 子供を生む、そして何もやれないといふ事の中  
から更に強ひる金をつかんで来るといふふうになる  
のではないですか？

A 子供は今までのように保険の代用にならないと  
いふことは、さういふ事、来た現在、子供を生むこと  
は全般的な事になります。それがどうしても  
個人間の事になるのです。

語はこれから先、各人の家庭内の話、例えば洗濯  
はどうするか、台所はどんなふうに分担している  
か、それを男性にさせられない女性の側の肉體な  
どに発展して、会を終つています。



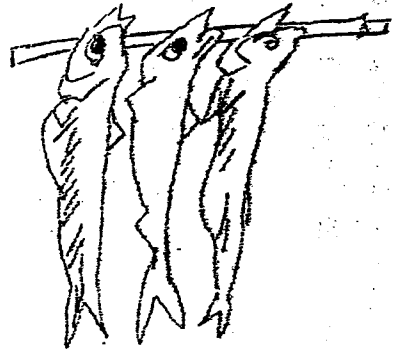
譯多ナル一下の皆さん二人にち  
わ、語をいに出席をさせんのぞ  
今度の討論の便宜上談上反論をひ  
とつた。女性独自の体系だ  
った思想はまだ生まれていません  
。級時的な感覚や非所有感覚の所  
有は、強い疎外を受けられたもの  
が、外的異に得た自由にはかなりま  
ん。内側からみればなにもなか  
らも拘束されない領域なのです。が  
全社会的には、体制におしつがさ  
れた階級の自己保身なのです。  
ここから立ちのぼってくる秩序を  
らざる気分を、私は論理などと呼  
んではいけないのです。専らと喧嘩し  
ますときは、女の生理もひっくり  
めて女へ対して、全支配能力を持  
つ規律が内部に醸成するかの如く  
二の気分をふり廻すのです。けれ  
ども、風をえたい夕陽がいつたい  
何を隔つけるというのさしよう。

自己規定性のない実態とは何か。  
それを穿くものはまた何なのか。  
その端緒さえ私たちが見つけてい  
ないのです。無名へかえろうとい  
うことは、日常的に女をばり理的  
にも思考の最期の上でも全く無縁  
な存在であるいまの人間関係は  
ままりつかオママエなどと気やす  
く呼んでもらいませう、というこ  
とです。存在をみずから名をの  
こつておさる証りを差し出して、  
はじめにわたしの男、僕のかと呼  
びあうことがおさるまで、一枚一  
枚脱いでゆくばかりありますまい。  
自己を支配する規律を生むまで。  
それは個別的な動作であると同時に  
に、深く集団に密着しています。  
いや、鍵があたりとおく昔のよう  
に、両者が切捨てなきなくなった地  
帯なのです。その時、一瞬に女は  
一定の度をめくります。二ついう  
意味で、女の生活原理を、現在二

のときにかけられる重さのすべ  
を担う力を、自分たちの中に見出  
して二つとしていきます。  
女を創造することすなわち集団の  
誕生だということには、性的対立が  
先なのか階級対立が先なのかとか  
先ず女の挨拶に次ぎ男女の挨拶と  
いった二元論とはひざしを真にし  
ます。二つの要素が同時に断ち切  
れる道を求めねば女は浮かばれま  
せん。存在としての女をばられた  
現在の通用キップを抱かれるのは  
ごめんです。抱くのは勿論。同じ  
く嘆いている彼岸の求婚者の足も  
まだからついています。彼等は女  
と挨拶をしないことを吸ったとこ  
ばくの味を捨てかねていますから  
。それから子供を生むという  
ことを、生理現象だけに密着させ  
ますと、純な母子関係は聖外女受  
胎以外にないことになってしま  
います。

— 井戸端会談 自己診断 —

# 字部グループ



- 今月は無名通信をよんでどのよう下感じているかみんなを話しあう事にしてなんでも思っていることをしゃべることにしましょう。
- まあ一口に言って期待をかけていますね。
- 私は来るのが待ちどおしくて来るとひどいまで呼んでしまいます。
- 全体としてのしみに待っているという事です。そして期待をかけていると。
- 否、二、はこういうふうとかいうふう下、いろいろあると思うけど、それを出し之みましよう。
- あまりにも未完成のものばかりのよう下思いますけど……。

- 通信は未完成のものを投はかけてきて、そしてまじまったものにして送れということではないかしら。いろいろを方面から批判できると思いますがね。
- 私はみんなをこうして集るといふことが大変にしみになつて、この次は何日だったかしら？と気になつてやれないの。
- そうね、主婦会などの幹事講座なんかでも何回ひらいても集まったのは幹部ばかりね。友だちみんな集らないでしよう。
- 連絡してみても、集る人だけでも集って来たらいいよ。
- 集りがわるいので、又呼びかけに行くとね、今洗濯で出られないとかなんとかいってね。
- 私たちの仲間の中、五人だけでも出ていく習慣をつけることがい、ね。
- 二、で通信の町題として投はかけて送たいと思うのは、自分で自分を促つめる力を養うことが大切だと思ふの。否なかつたら何も区さないと思ふけど……。私たちは、田舎からオマシに牛耳られ、そして世間から牛耳られ、その中で生活していて、自分というものがわかるはずがない。
- 今までの女はね、と下かく人の気に入られさへ

すれはい、と満足して来たんだから、自分を心算が  
えつてみるどころじゃなかったものね。

○ 自分をみつめるということさえわからなかった  
のだ。口ではよくいっているけれどね。

○ 通信の筆名かり批判するのさもなく、みんなの  
なやみをさらけ出して、その中から自分をみつめて  
いこう。

○ 婦人会の人の中には、女に生れてきてほんとに  
しあわせだと感づけるという人もあるのだ。 誤い  
折挫けみつめて生活していくというし、私には理解  
できないね。この人達の心理……

○ ほんこのことのないえな、夫婦をやひけないね、  
さもなくともほんこの争のいえる夫婦って少  
ないんじゃない？

○ 自分をみつめることもできないで、人の批判を  
よくやっている。おかしいと思っね。

○ やはり二、三焦まって来る人は、しやべれなく  
ても理論的にわかっている人が多いんじゃない。

○ いやあー、わからぬね。

○ まだわからない所が多いのよ。面倒くさくなっ  
て、自分の中に入ってしまった。いけないんだとは  
思いませんから……

○ わたしはなにせんのに限ると考えていたのよ  
家と云う穴の中に二もっている方がい、と思ってい  
たけど、さもなく二人な人が一寸つまづいた時には  
りよわいな。

○ 考える場所に出でいかないから、自分をみつめ  
、考える方がないからね。

○ 日帯仲がよくてね、冗談をた、きあつた人でも  
何か動機があると顔を見るのも嫌になるのよ私は。

○ 女はつまらんことを気にするからね。  
○ 相手次第でいえるんな自分が現われて、それがほ  
んもの自分のわからぬ時がある。

○ 京大に私が行ったとき、実にうらやましいと思  
ったね。二んなな々とした折挫のびのびと勉強して  
いる学生がほんとにうらやましかった。 ところが  
ね。 学生の顔、実にやさしとしていた顔ばかり  
。ハテナ、どこか不気味な顔だと感づいた。そうよ、  
并竹君の顔ね。 学生とよく話してみると、サークル  
さもなく、二年、三年の頃は希望をもって、実によく集  
まってくる。四年になると集まって二ない。入学の  
時は希望にみちあふれて校門をくぐるが、同好に教  
育の自由のないのに絶望を感じる。 四年になると  
疑念の肉體はサークルもやぶれてしまふんぞすね。

○ やはりサークルをやっていると就版に影響する  
んぞしようね。

○ それはあるけど、やはり友誼同志の結ぶつきが  
なくなってしまうのよ。この人よりも自分が、と云  
うようにお互い上のぎをけずりあってるようでは、  
サークルはつづいていかないね。

○ サークルをやると、やはり新しい人間関係が  
できてくるし、自分自身を変革して行くことができる  
。むっかしいことだけだね、苦しいこともあり何も  
かも投げ出したくな。そすわりこんでしまっただ  
や。知りサークルはやめられたいと思う。サークル  
の中の人間関係ってたい現すことができない。

○ 何か書くこともないから書いてみたら。

○ 何か書こうと思えば何も書けない。書きかけ  
ると、昔の筆を置くようになると、古傷に当りたく  
ないと思っついで書くと筆をやめてしまうのよ。

○ あらゆるものの中から、男の悪口でもいいと思  
うけど、砂時計などのっているでしょう。あれを  
みてあ、こんなのがいいなと感ずるんですよ。

○ みんなで一日一行づつ書くということにしたら  
いいと思いませんか。

○ 今度廿二日に野口に集る筆になっっています

無名通信 / タタタ / ノス・スノ発行

福岡県中野市本町六丁目 九州サークル研究会内

たのしみを持って語彙を持って集りましょう。

全体として無名通信への要望は、あまりむっか  
しい言葉を書いてもらっては困るということだ  
す。現在用語のわからない番ばかりですからわ  
かりやすく、みんな消化できるものにしたいた  
いと思ひますのよよろしくお願ひ致します。

※ 編集部便り

ハ文責 野口

今月も表紙・カットを松尾みね子さんより頂さま  
した。東京の杜がしい仕事の間送っていたた  
き感謝しています。会員の方々も感想や注文な  
どお寄せ下さい。また表紙・カットなど歓迎いた  
します。

・話し合いの会をいたしましたよう。

一月二十四日(日)昼日(午前十一時から四時迄)  
無名通信発行所で。

昼食の用意を致します。実費五十円くらい集めま  
す。楽しい正月だからお雑煮がいいかしら。食べ  
あさてるかしら。『わたしたちの故郷』という  
ことを中心にあっち飛ぶ二っち飛ぶして話しまし  
よう。参加の方御一報下さい。